

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービス かるみあ		2026年 3月 10日				
		チェック項目		工夫している点	課題や改善すべき点	
		はい	いいえ			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		指定に基づきスペースを確保している 1階と2階の使用用途を変え、活動内容によって使い分けている	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		配置基準を満たした配置をしている 複数の資格を所持している者も多く、特性や状態を考慮し適切に対応している	若い指導員が少ない(現在40代以上)
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		可能な限りのバリアフリー化はできている	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の掃除は必須、トイレなどは都度確認をしながら心地よい環境づくりに努めている	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		1階と2階、子どもの状況や職員の人数などを考慮しながら使用はできるようになっている	同じ階にないので、職員の配置が課題となることもある
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		日頃からコミュニケーションを多くとっていることから、関わる職員からの意見も聞くことができている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年に1度のアンケート実施。それを基に職員も保護者の意向理解がすすむことで、深く話すことができるようになっている	評価表の公開をお知らせしていなかったため、今年度よりお知らせし、保護者の方にも見てもらうようにする
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日頃からコミュニケーションを多く取り、毎日の業務の中で積極的に意見を出し合っている	シフトにより、全員が同じ場に参加できない
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	評価を行う機会は設けていないが、積極的に外部の意見を取り入れ、業務改善に繋げている	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		内部研修、外部研修などを含め積極的に参加、開催している	外部研修に参加したくても、指導員の配置上参加できないこともある
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		HPで公表している	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		子どもたちや保護者の方とコミュニケーションを多くとり、常に情報共有をしていることも含め計画に反映させている	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		関わる全ての職員の意見を聞きながら、優先順位や指導方針を検討し、計画書を作成	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画書は共有され、共通認識している 計画を基に毎日の状況に合わせてながら、支援している	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の行動観察などは指導員が無理なく記録できるスタイルで毎日記録している	アセスメントシートをより事業所や利用者の方あったものにするために協議中
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに沿って計画を作成 常に保護者との情報共有や送迎時での学校の先生との連携などを図っていることで課題や最優先事項の支援内容を検討、計画している	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		児童発達支援管理責任者、責任者研修修了者を中心に指導員全員で活動プログラムを考えている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		利用児童の特性と各指導員の専門分野を考えながら意見交換し、プログラム内容を工夫している	

児 供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個々の特性やニーズを考慮し、様々な活動を組み合わせながら計画している	小学生・中学生・高校生と幅が広い層が発生する日の活動については課題となっている
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		活動前に打合せは念入りに、前日の振り返りと合わせながら、支援について確認をしている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終了後には打ち合わせをしていないが、児発管に個々に報告連絡相談するようにしている。児発管の判断により、緊急性や重要性を感じた場合は即座に共有、翌日の支援前の打合せを多く取るようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		無理なく自由に記録できるスタイルを取り、指導員の目に留まったことを書いてもらっている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		基準に基づき実施している	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		ガイドラインに基づき実施している	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		当施設が目指すところの一番が『自立』であるため、スモールステップで踏みながら自己決定できるように支援をしている	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		相談支援の方とは密に連絡を取り、必要に応じて会議をお願いしている。多くの学校とも会議を行っている	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関とは積極的に連携を図っている。学校に関しては児発管が送迎に行くなどし、関係を築いている	学校以外の関係機関との連携についても関係が築けるようにしていきたい
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		連絡調整は保護者の方を通じてを基本としているが、必要に応じては学校とも直接やり取りさせていただいている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて連携をとり、情報共有することは理解している 今までに実績はあるが今年度はなかった	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		今年度は該当者はいなかったが、職場体験や見学などから学校とともに関わりを持ちながら、引き継げるようにしている	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		研修などの講師の方々とは個別に繋がっており、その方々から助言を頂いたり、研修などにはお誘いいただき受けている	センターともつながりが持てるようにしていきたい
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		長期の学校休業日を使い、地域の活動や様々なイベントに参加し、交流を深めている	土日祝は休業のため、春休み・夏休み・冬休みの時にしか交流する機会が作れない
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		子どもたちの支援を一番と考え、日程調整や指導員配置によって参加することは叶わなかった	子どもたちのサービス提供時間内での外出は難しく、課題ではある
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時を利用し、情報共有をタイムリー行う。また、午前中も電話やラインなどをいただくことも多く、早めに共有を心がけている	仕事を持っている保護者の方などの営業時間内に相談が難しいことが課題となっている
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		現在は個別にご相談いただいた方に提供しているのみで、広く広報はしていない	情報提供を強化していくよう改善する こうしたプログラムがあることを周知する
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		事前説明をしっかりと行い、契約時にも再度しっかりと確認し、疑問や質問に答えるよう心がけている	日本語以外の説明においては課題となっている
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		意思の確認には十分に時間をかけ、子どもや保護者の方が納得するサービスが提供できるように心がけている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画書は一旦持ち帰っていただくなどしながら、家族で話し合ってもらってサインをいただくようにしている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		関係各所に「少しやり過ぎでは」と言われるくらいの支援を行っていると感じている	相談に対しては受け身なため偏りが出てくる 時間内に相談できない家庭もあるため、時間外については現在協議中

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		コロナ自粛を挟み、開催をストップしたまま現在に至る 保護者の方の負担にならないような支援をしたい
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	小さなことから共有を頂いたりする中で苦情に発展しないよう解決に向け動いている 苦情があれば速やかに対応している	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○	活動の情報、行事予定は紙媒体、LINEでの個別提供をしているが定期発行はしていない	HP、SNSなども公開はしているが、活動状況は現在載せていない
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	連絡方法の一つではなく、連絡帳・関係機関の協力・電話・LINEなど複数の手段を使いながら、正しく伝わるようにしている	日本語以外の連絡手段（文字）が課題 （現在は口頭、ひらがなでわかりやすい単語で提供している）
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	日頃から地域の方にも理解してもらえるよう子どもたちとともにコミュニケーションを図っている	小さな事業所のため、招待するような行事を開くのが難しいと感じている
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	マニュアルは作成し、活動室内に設置。 指導員には周知している。	契約時に説明はしているが、訓練等についても周知していけるようにしたい
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	避難訓練は机上を含め実施している。	保護者に対しての周知が出来ていない。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○	契約時に書類にて確認。日常の状況・体調などと照らし合わせながら、違和感を感じた時は保護者の方にも共有している	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	契約時に指示を書類にて確認。 おやつの時なども十分配慮し、違和感を感じた時はすぐに共有をしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	即時口頭での共有はしている その後、再発防止に向け、検討し、書類に残していくようにしている	以前は日報に記載していたが別で書類を作成するようにした
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	自治体や各機関の研修、e-ラーニングを活用し、職員が全員確認をするようにしており、共通認識を図る		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	契約時に十分な説明をし、了承を得ている		